



# 各地に残すべき地形・地質

## 磐梯山ジオパーク

### ダイナミックな大地の変化との共生

磐梯山ジオパーク協議会事務局 蓮岡 真

#### 1. 磐梯山ジオパークのテーマ

磐梯火山は、東日本火山帯の火山フロントに沿った、東北地方を代表する活火山である。眺める方向により、会津富士と称されるやさしくなだらかな山容と、噴火の爪痕を今なお残す荒々しさという対照的な二つの姿をもつ。磐梯山の麓には、日本有数の透明度を有し、天を映す鏡（天鏡）に例えられる猪苗代湖や、明治の噴火によって誕生した大小 300 余りの湖沼が織りなす水と緑の美しい裏磐梯高原が広がっている。大自然が創り出した地質学的価値と美しい景観を併せもつ磐梯山は、まさに福島県を象徴する山であり、かけがえのない貴重な財産である。

磐梯山は歴史と文化を育んだ山でもある。南側の猪苗代湖畔には、旧石器時代や縄文時代の人々の生活を示すたくさんの遺跡がある。南西麓には、平安時代初期に高僧徳一によって慧日寺が開かれた。猪苗代町には古代に建てられた磐梯神社や会津藩初代藩主保科正之を祀っている土津神社など、磐梯山に関わる多くの文化遺産がある。本ジオパークのテーマは、磐梯火山の誕生と変遷、特に水蒸気爆発による山体崩壊と岩なだれがもたらした大規模な地形および自然環境の変化についての理解を深めること、同時に、磐梯山が人々の生活や歴史に与えた影響およびそこで形成された独自の文化について学ぶことである。



猪苗代湖方面から見た磐梯山  
(左山頂：磐梯山 右山頂：櫛ヶ峰 中心手前：赤埴山)



会津湖方面から見た磐梯山  
(左山頂：櫛ヶ峰 右山頂：磐梯山)

#### 2. 地形・地質概要

磐梯山火山は、磐梯山（1816m）、櫛ヶ峰、赤埴山の三つの峰からなる。火山全体を呼ぶとき「磐梯火山」とし、峰のひとつを呼ぶとき「磐梯山」とする。

磐梯火山およびその周辺地域は、地形・地質の観点から、大きく分けて、火山地形地域、岩なだれ堆積地域、火山麓扇状地、湖岸平野、大起伏山地に区分できる（図1）。これらの地形は磐梯火山の地史と密接に関係している。すなわち、この地域は、磐梯火山の誕生そして成長と崩壊の繰り返しによって形成されたユニークな地形で構成されている

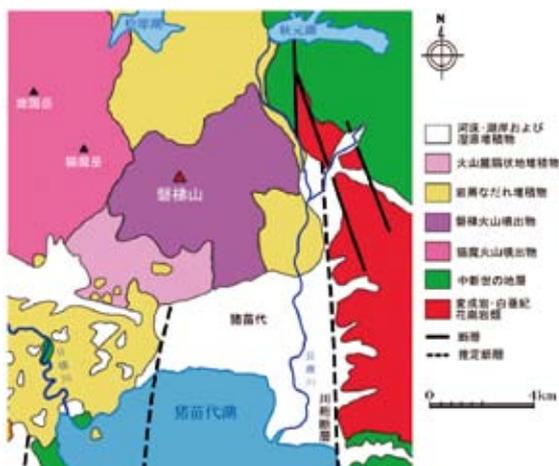


図1 磐梯山周辺地域の地質 鈴木・真鍋 (1988) をもとに改作

### 3. ジオサイトの目玉（地形・地質編）

#### ① 1888年岩なだれ

1888（明治21）年の噴火（水蒸気爆発）により小磐梯（約1750m）の山体が崩壊し、北側に箱状谷（アバランシュバレー）を作り岩なだれが流下し、裏磐梯地域に流れ山地形を広く形成した。岩なだれの先端部は長瀬川に入り泥流となり南方に流下した。一部は大磐梯南東側の琵琶沢沿いに流下した（図2）。この噴火で477人もの人々が犠牲となった。この岩なだれが裏磐梯の川を堰き止め、桧原湖や五色沼をはじめとする裏磐梯の湖沼群が誕生し、美しい景観を造り出した。



1888年の噴火後にできた銅沼(あかぬま)銅沼の性質は、弱酸性を示す

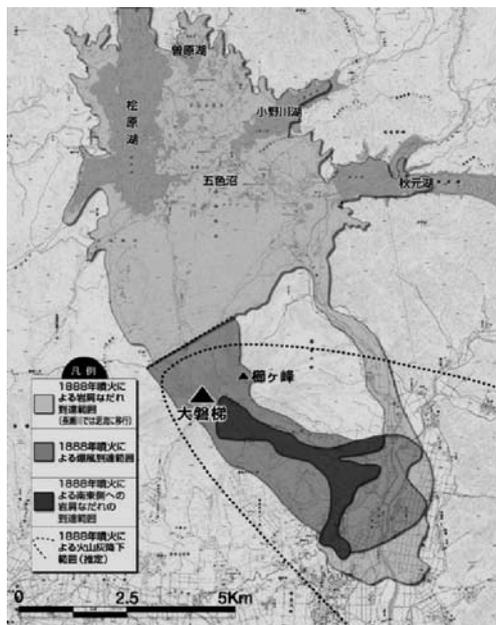


図2 1888年噴火による岩なだれ到達範囲図災害訓練の継承に関する専門委員会（編）（2005）「1888 磐梯山噴火報告書」

#### ② 翁島岩なだれ

およそ4万年前、爆発により磐梯火山の山体が大規模に崩れ、岩なだれが発生し南西側に広く堆積した。岩なだれ堆積物の最大の厚さは120m、崩壊した総体積は4km<sup>3</sup>と見積もられている。そこにはお椀を伏せたような形の小さな丘（流れ山）（写真2）がたくさん形成された。猪苗代湖北西部にある翁島もその一つである。（写真3）

流れ山の内部は、崩壊した岩体を構成していた安山岩・火山角礫岩・凝灰角礫岩の大小さまざまな岩石からなる。翁島岩なだれは、当時会津盆地方面に流れていた川を堰き止め、現在の猪苗代湖を誕生させた一因となったと考えられている。



写真2 猪苗代湖と翁島岩なだれ丘陵 写真3 猪苗代湖の翁島

### 4. 磐梯山ジオパーク協議会の取り組み

体験や学び、研究を目的として地域を訪れるビジターを受け入れ、ガイドランスし、学びと体験、交流、情報発信の機能が向上することで、ジオパークとしての活動を充実させていく。



そして、ジオパークを活用した「地域づくり」「人づくり」を推進していく。先人は、“大地の変化と恵み”を活かした地域振興に取り組んできた。手間と時間をかけ、目標を共有しながら、先人の知恵とジオパークの知見を活かしていける磐梯山ジオパーク型の取り組みを展開していきたい。